このまちと ともに

丹波市の歌

作詞　秋山　知美
作曲・編曲　千住　明

緑の木に抱かれた　私たちの故郷は
鳥のさえずり川のせせらぎに　木もれ日降り注ぐ町
どこかに置き忘れてた　夢のかけらを探して
懐かしさ溢れ出すアルバムを　開く時は今

悲しみや痛みさえ　いつの日か越えられるよ
歩き出そう　空を翔く鳥が描き出す輝く光が
大きな力になる　このまちとともに生きてゆこう

春の川沿いの桜　夏の夜に光る蛍
夕陽浴びきらめく稲穂の秋　雪解け待つ冬

こんなにもそばにある　何気ない宝物さ
見つけ出そう　空を見上げると今動き出す愛しい世界が
大きな力になる　信じた夢へとつなげよう

歩き出そう　空を翔く鳥が描き出す輝く光が
大きな力になる　遥かな歴史を紡いで
このまちとともに生きてゆこう

歌詞について

兵庫県の東部に位置する丹波市。私はこの土地に惹かれて移住をして参りました。
疲れた時にふと目に映る山々、鳥の鳴き声や川の流れる音、緑の香りやふっと吹く風。都会で育った私には、これら自然の全てが、人が生きていくために無くてはならない大切な宝物のように感じられました。
五感を通して感じる自然が近くにあって幸せです。

五感で自然を感じるように、千住さんのメロディーに乗せ、聴いていただいた方の五感に訴えかけられるような曲に出来ればと思い言葉を紡ぎました。

丹波市にご縁のある皆さまにはもちろん、他の地域の皆さまにも、
それぞれの故郷を懐かしく思い出していただけるような、そんな歌になればと願っています。

この歌がたくさんの人たちに広く歌われていきますように。

秋山　知美

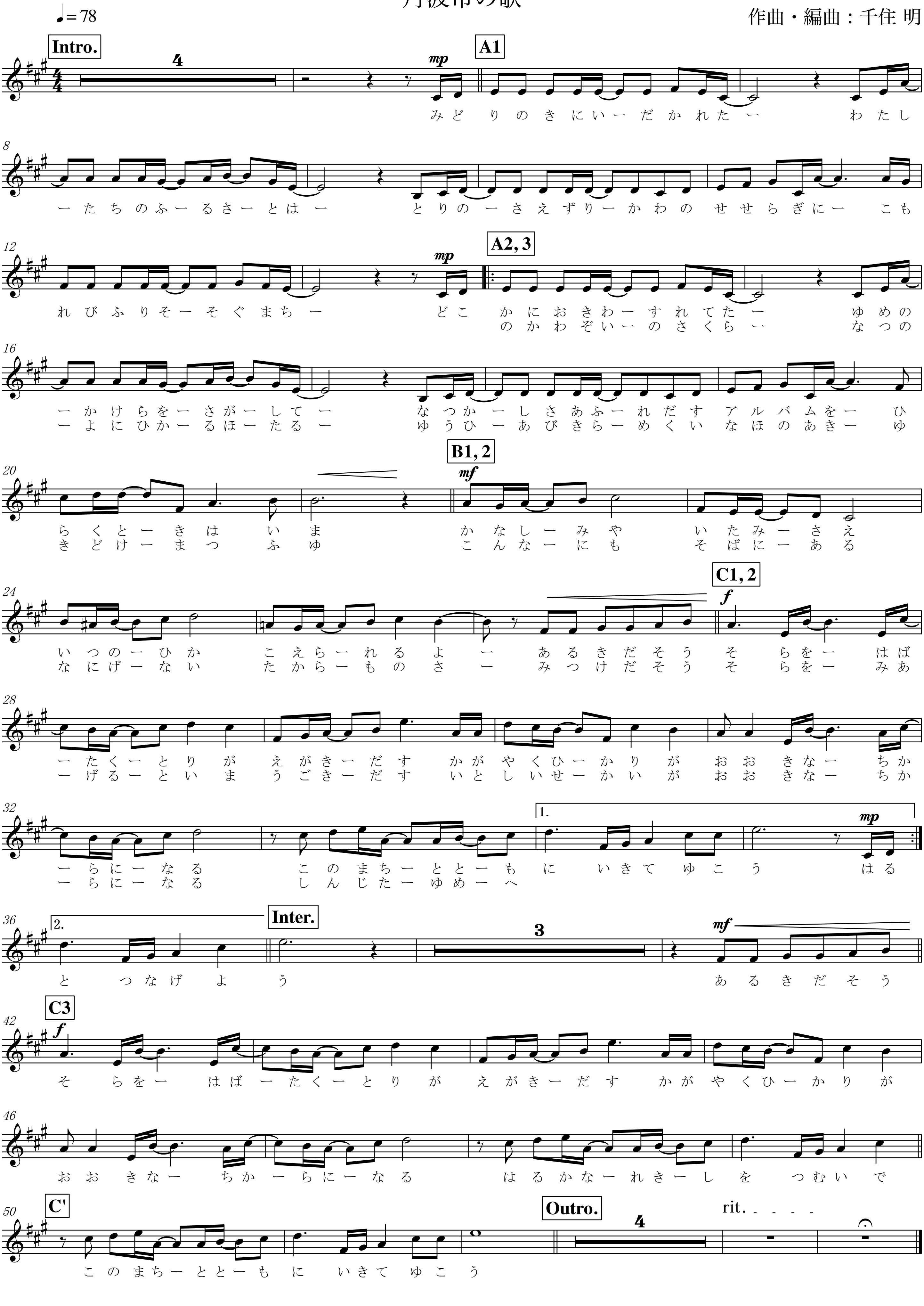
作曲について

市民の心をひとつにするため、歌をコミュニケーションとして使うということは、
作曲家冥利につきます。今まで曲をつくってきたのは、こういう曲を書くためだと思い、
皆さまに寄り添える曲をつくりました。曲と詞が手を取り合って互いの良い所を引き出すことで
わかりやすい言葉が大きな力を持ちます。

歌っていただく皆さまが、この曲に命を吹き込みます。主役は歌っていただく皆さまです。
いつまでも、愛され、歌い継がれる歌になってほしいと願っています。

千住　明

このまちと ともに

丹波市の歌

作詞：秋山知美
作曲・編曲：千住 明